

# 日本語コースカリキュラムと指導について（第1集）

－短期研修生（第2外国語として履修）を対象として－

竹田 治美・廣田 直俊・加納 巧

Harumi Takeda, Naotoshi Hirota, Takumi Kano

## 1 はじめに

近年、長期に来日する留学生が大幅に減少する一方、短期留学生が急速に増加している。その中でも、最も多いのは数週間程度の「遊学」形式の短期研修である。これは大学間の国際交流が活発に行われていることと、本国の大学に在籍しながら日本文化を体験したいと考える学生が増加していることが背景としてみられる。よって、短期研修生の日本語指導方法のあり方が大きなテーマとなってきた。

大学において日本語短期研修を実施する際、教材の選択・使用、クラス編成、プログラム計画、教員配置などが重要である。その中で最も留意すべきは、講座担当者間の連携であるといえる。

オムニバスで一つの講座を担当する際も、担当者間でその目標を共通理解し、指導項目を分担するくらいで、相互の講義内容について意見交流したり、指導方法、指導内容について詳細に分析し研究協議したりする連携指導は少ない。大きな要因として全体の学習時間が短いことが考えられる。そこで、今回研修生の教育効果を高めるために、送り側大学と受け手側大学の担当者、講座担当者間で緊密な連絡調整を図る。まず、学生の日本語レベルを含めた事前調査や全体像の構成から部分内容の調整までの確認を行い、望ましいコースカリキュラムの作成と指導のあり方について模索することの足がかりとして、本報告を行うこととなった。

## 2 研修参加大学

平成24年度、奈良産業大学で受け入れた研修生は、台湾・国立屏東科技大学11名（男性5名、女性6名）、カンボジア・メコン大学2名（男性2名）、中国・青島理工大学琴島学院6名（男性4名、女性2名）、香港・香港城市大学専上学院14名（男性4名、女性10名）の33名であり、いずれも約1ヶ月間の短期日本語研修である。この内、屏東科技大学と青島理工大学の学生は第2外国語として日本語を履修しており、メコン大学と香港城市大学の学生は日本語を主専攻としている。

なお、本稿では第2外国語として日本語を履修している研修生を対象とするため、「初級日本語コース」（屏東科技大学）の取り組みについて報告することとする。<sup>1)</sup>

## 3 事前アンケートと学習コース編成

研修を行うに当たって、来日前の研修生に対して、簡単な事前アンケートを実施した。その中で、研修生は日本語会話力について表1のように自己申告している。

また、研修への希望については、他大学の学生同様、日本文化を体験したいとの回答が最も多かった。具体的に

表1 日本語会話のレベル

		話せる	少し話せる	挨拶程度	話せない
国立屏東科技大学	11名	—	5名	5名	1名

は、伝統的日本建築、祭り、日本食、剣道、茶道、和菓子、アニメ、着物（浴衣）などの体験である。次いで、日本人と友達になりたい、日本の生活を体験したいとの回答も多く、このことから、研修生にとって、まずは四技能のうちの「聞く・話す」を伸ばす必要があることが伺える。

これに対して、日本語講座の内容に関する希望を回答する学生は少なかった。屏東科技大学の学生が授業に対して意見・希望を述べる習慣がないことが、理由として考えられる。

研修生の情報は学習コース編成に当たり、非常に重要な項目である。本年度のアンケートは、アレルギーや持病など、生活に関わる部分、ホームステイに関わる部分などが一緒になっていたが、来年度は生活部分と学習部分に分ける必要がある。

#### 4 短期日本語研修における講座内容の設定

短期日本語研修の実施において飯田（2006）は、「クラス編成上クラス内にレベル差があること、授業当日まで学習者のことがはっきり分からずに授業内容を考えねばならない」という問題があることを指摘し、その対策として以下のように述べている。

「事前のアンケートや、派遣大学の講座担当者との打ち合わせ、また派遣大学における日本語課程の学習項目（内容と時間数）等の資料で対応しており、以前よりもかなり改善されたといえる。しかし、実際には短期研修生と接してはじめて分かることも少なくない。担当授業の回数に限られていることを考えると、いかなる場合でも対応できるような講座内容の設定が理想的である。」<sup>2)</sup>

そこで、本年度は、以下のような目標を立て、これに基づいて講座内容を設定した。

- i) 学生のレベル差に関わらず、全員が取り組める内容にする。
- ii) 興味・関心、希望の多い内容（教材）を取り上げる。

##### 4-1 既習内容の把握

国立屏東科技大学のシラバス集から「日本語講座」に関するものを抜粋したものが資料1である。授業の内容は、数字が大きくなるに連れて難しくなる。以下に日本語訳された概要<sup>3)</sup>を次に示す。研修生はこれらの講座2～4講座選択履修している。<sup>4)</sup>

###### 日本語（1）

この科目は、日本語を学習する上での基礎となる授業である。この科目では日本語の発音の仕方や特色について講義し、清音・濁音・長音・拗音・撥音・促音およびアクセント・イントネーション等、日本語の正確かつ美しい発音を習得させる。

###### 日本語（2）

初級日本語教材に合わせ、文法・文型を簡単なものから徐々に導入し、それに副読本や宿題などを課すことによって十分に理解・吸収させ、かつ応用できるようにする。また、定期的にディクテーションなどの小テストを

行い、聞く・話す・読む・書く四技能を同時に高める。

#### 日本語（3）

日本語の発音、アクセントを習熟させる。この他、基本的な文型の学習を通し、話す・聞く面において日本語を用いた円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。授業では、基本文型の導入のほか、聞き取り練習、ビデオ等と用いた学習等を行う。また、語学の学習だけでなく、日本の風土や民族、文化・礼節などの紹介も行う。

#### 日本語（4）

日本語の基本的な文法構造に習熟し、基本文型・語法・読解の能力を高め、日本語の基礎を固めることを目的とする。授業では、日常生活・文学・文化・社会・科学等に関する内容も含み、これらの内容について日本語で自らの考えを述べられるようにする。

### 4-2 大学行事との連携

大学が行う各種行事と講座内容に関連性を持たせるために、奈良産業大学国際交流センターより行事一覧を入手した。ホームステイ（2泊3日）、茶道体験、温泉体験、剣道体験、浴衣着付け体験、化粧体験（女子のみ）、奈良観光、京都観光、大阪観光、信貴山見学などの行事が予定されており、それぞれの行事と関連させて、講座スケジュールを設定した。

表2 講座内容と学校行事

月日	曜日	課	午前		午後
			指導項目	トピック	研修行事
7/4	(水)	1	はじめてのあいさつ		
7/5	(木)	2	注文する・値段を聞く	笹船	※1 七夕
7/6	(金)	3	お願いする		奈良観光
7/7	(土)		大阪観光		
7/8	(日)				
7/9	(月)	4	許可をもらう		
7/10	(火)	5	物をさす	茶道	※3 茶道体験
7/11	(水)	6	くらべて言う		龍田神社見学
7/12	(木)	7	今のことを話す		浴衣購入／剣道体験
7/13	(金)	8	友だちと話す		※2
7/14	(土)		ホームステイ		
7/15	(日)		ホームステイ		
7/16	(月)		ホームステイ		
7/17	(火)	9	順番を言う	温泉／浴衣を着る	※3 日本のアニメ／温泉体験
7/18	(水)	10	経験を話す	和菓子	
7/19	(木)	11	やり方を聞く		
7/20	(金)	12	希望を言う		
7/21	(土)		京都観光		

7/22	(日)				
7/23	(月)	13	気持ちを伝える		
7/24	(火)	14	はじめてのあいさつⅡ		地元歴史(信貴山)、浴衣着付け
7/25	(水)	15	場所を聞く		ビューティーアップセミナー (女子のみ)
7/26	(木)	16	時間を言う		花火大会
7/27	(金)		発表会(資料2)		

#### 4-3 講座の目的と教材

研修生への事前アンケートの結果、日本文化への関心が最も高かったため、日本語能力(特に聞く、話す)を高めると同時に、日本文化への認識を深めることを講座の目的とした。

教科書は「エリンが挑戦!にほんごできます」を使用した。この教材は、素材提供型の映像教材で、「語学学習」と「異文化・多文化の理解」という2つの柱を持っている。「語学学習」には「CAN-DO」シラバスが用いられ、「異文化・多文化の理解」では若い世代が興味を持つ場面やトピックが扱われている。補助教材として講師作成のパワーポイント教材を使用し、ハンドアウト資料を配布した。

#### 4-4 授業時間中の工夫

実用性を重視し、日本語の講座と研修行事を関連づけてカリキュラムを組んだ。一つのクラスの中では、来日以前の日本語の学習時間や経験による語学レベルの差異が大きく、それを克服するため口頭表現の運用能力の学習を優先した。

例えば、第2課「注文する」、第3課「値段を聞く」の授業で買い物の表現を学習すると、翌日には奈良観光(奈良公園、東大寺、春日大社の見学)があり、みやげ物を買う機会がある。学習した表現は実際使うことができると、学生に意識させるためである。また午後の研修で七夕体験が予定されていたので、七夕、笹舟に関する内容を授業に組み込んだ。「希望を言う」は別の日の指導項目として設定していたが、短冊に願い事を書くために、当日も最低限の項目を導入した。(※1)

第8課「友だちと話す」では、普通体と待遇表現を指導内容とした。前者はホームステイの家族が話す言葉を聞き取れるように、後者はホームステイ先の家族と話すときに意識すべき事柄である。(※2)

また、第1課から第8課までのカリキュラムは、ホームステイ先でのコミュニケーションが円滑にいくように意識して指導項目を設定している。授業の最後にホームステイ先で使いたい表現を聞き取り、学生が必要と考える表現に関して指導の漏れを防いだ。

第5課、第10課はそれぞれ茶道体験、温泉体験が午後の研修で予定されていたので、茶道・温泉に関するDVDを授業中に観賞、説明し、午後の研修への橋渡しとした。(※3)

以上のように行事やホームステイなどを、日本語学習と関連させた語学研修の一環としての「付加価値的言語学習方法」を最大限に利用した。その他、語彙力を向上させるために普段から親しみのある「外来語」を多く練習に用い、発音しやすく覚えやすい語彙を多く使うことによりその効果も大いにみられるようになった。

また、担当教員の指導の連携により情報を共有し、全体の一貫性を重視するとともに、柔軟性のある授業内容がさらに工夫されるようになった。

## 5 今後の課題

今回の講座を振り返ってみると、大学が行う各種行事と連携した講座内容を目指してきたが、すべての日程で実現することはできなかった。畠山・齊藤（2012）が指摘するように、「短期研修において送り出す側と受け入れる側の講座内容を連動させることの可能性を両学で模索していく必要がある」だろう。<sup>5)</sup>

今秋には、国立屏東科技大学において、研修に参加した学生による報告会が開催される予定である。研修生が日本滞在中に何を見て、何を感じたのか、その内容を分析し、次年度の日本語コースカリキュラムの作成、指導の在り方を探っていきたい。

## 注

- 1) 国立屏東科技大学と青島理工大学琴島学院は研修実施期間が異なるため、青島理工大学琴島学院については、稿を改めて報告したい。
- 2) 飯田透（2006）「日本語短期研修の現状と課題・海外提携校からの短期研修団の受け入れについて」『拓殖大学語学研究』（112）pp. 101-115
- 3) 原文は中国語と英語で書かれている。日本語訳は加納が作成した。
- 4) 履修にあたっては、例えば日本語（二）を履修するには、先に日本語（一）を履修し、単位を修得しなければならない。
- 5) 畠山理恵・齊藤真理子（2012）「「知っていることを使う」を目指した日本語短期研修のコースデザイン・泰日工業大学を対象とした研修を事例として」『文化学園大学紀要・人文社会科学研究』（20）pp.121-136

## 参考文献

- 稲葉みどり（2009）「短期研修留学生のための日本語教育 日本文化理解と国際交流の推進をめざして」『教養と教育』（9）pp.1-8
- 熊野七絵（2008）「大学生短期訪日研修における体験交流活動型のコースデザイン」『広島大学留学生センター紀要』（18）pp.31-46

## 資料1 日本語講座講義概要 (国立屏東科技大学シラバスから抜粋)

日文 (一)	2	選修	加納 巧
<p>本科目為學習日語之基本課程。指導學生日語發音技巧與發音上的特色，使學生能夠學會日語正確而優美的發音。內容包括：發音上的特色、清音、濁音、長音、拗音、撥音、促音以及語調、句調等。</p>			
Japanese (I)	2	S	Takumi Kano
<p>The purpose of the course is to help students learn skills and characteristics of Japanese pronunciation and then understand how to pronounce well and correctly. The course includes basic kinds of Japanese pronunciation-breathed sounds, voiced sounds, accent and intonation, etc.</p>			
日文 (二)	2	選修	加納 巧
<p>配合初級日語的課文課程內容，由淺入深導入文法、句型，再輔入適當讀物及課後作業，務使學生能充分理解，吸收並應用之。另外並定期舉行聽寫等測驗，俾始能達到聽、說、讀、寫並進的效果。</p>			
Japanese (II)	2	S	Takumi Kano
<p>In coordination with the contents of the elementary Japanese, grammar, sentence patterns are introduced to students in a planned way and selected reading materials for the better understanding of this language. In addition, tests in Japanese such as listening comprehension and writing are offered regularly for the object of improving their ability to know Japanese.</p>			
日文 (三)	2	選修	加納 巧
<p>指導學生熟悉日語發音，音調。透過基本句型的學習，期望學生能說、能聽，順利與人適當的溝通。內容包括：基本句型之傳授、聽力之練習、錄影帶之教學等。不僅是語言之學習，日本之風土民情、文化禮儀也經常列入談論。</p>			
Japanese (III)	2	S	Takumi Kano
<p>This course helps students familiarize themselves with more Japanese. By learning basic sentence patterns, they learn to speak Japanese, comprehend Japanese and even communicate with people in Japanese. The course includes the learning of basic sentence patterns, listening comprehension training, and understanding Japanese culture via audio-visual equipment.</p>			
日文 (四)	2	選修	加納 巧
<p>目的在使學生熟習日語之基本構造，能夠把握基本句型、語法、讀法、以奠定良好的日語基礎。內容包括日常生活事物、文學、文化、社會、科學等範圍，以期學生流利順暢的運用日語，表達思想。</p>			
Japanese (IV)	2	S	Takumi Kano
<p>Comprehending Japanese writing styles, grammar and readings will be the focus of this course. The course includes discussions on everyday life in Japan, Japanese literature, Japanese culture and society, and so on.</p>			

## 資料2 国立屏東科技大学研修生発表会原稿

鄭 育 宗	<p>七月三日、この日はとても特別な日です。日本への研修の第一日目です。その日の朝、台湾は嵐でした。学校から空港まで荷物をもって行きました。空港で手続きをし、ついに関西国際空港に着きました。飛行機が飛んだ時、「これから、未知の生活経験が始まる」と思いました。関西国際空港に着いたとき、天気は雨で、台湾とははっきりと違いました。三郷までの電車から見た日本のビルや人々の着ている服も台湾とは違うと感じました。電車を降りたとき、日本は涼しくて乾燥していて小さくて少し田舎だと思いました。</p>
翁 紹 軒	<p>日本へ来て、まだ二日目の開講式の日を思い出します。その時は初めての新しい環境で、とても緊張しました。開講式で、カンボジアから来た研修生の上手な日本語の発表を聞いて、更に私たちは緊張しました。昼、食堂で私たちのために歓迎会がありました。学友会と先生方は、私たちをとても歓迎してくれました。しかし、日本語があまり上手ではない私たちは、少し笑ってあいづちを打つだけでした。私たちは、日本での勉強と生活にとっても期待しました。</p>
沈 天 璋	<p>日本に来て二日目、私たちは大学の生活を始めました。歩いて学校へ行くことは、台湾ではあまりありません。屏東科技大学ではバイクで学校に通っていました。寮から少し歩くときれいな奈良産業大学に着きます。放課後は学校でいろいろな体験の予定がありました。茶道の一つ一つの動作には意味があります。はじめから最後まですべて芸術です。温泉体験の時、いろいろなお湯にはいりました。とても気持ちよかったです。たくさん人がいるのに、服を全部脱ぐのは恥ずかしかったです。それから、私たちに最も大切だったのは寮での生活です。私たちは時々簡単な料理をつくりました。学校へ行くときもお弁当をつくりました。このような生活は毎日、とても充実していました。</p>
洪 千 恵	<p>わたしたちは大阪城を観光しました。以前大阪城はテレビで見たことがあります。今回自分の目で実物を見ました。すごいです、綺麗いです。心の中はすごく感動です。大阪城の周りにはすごい堀があります。天守閣屋上の景色はきれいです。春は、桜が満開ですが、私たちは惜しいことに、花の海を見ることができません。今度機会があれば見に行きたいです。公園の中には、タイムカプセルがあり、それは5千年後あけられる、そうです。そのあと、天王寺動物園へ行きました。アザラシに魚をあげる経験をしました。台湾の動物園では見たことがない動物もいました。たとえば熊は台湾の熊と違います。こんな動物です。通天閣へ行きました、ここはいろいろな店、食べ物、遊ぶところ、お土産の店、そして、かわいい福神ビリケンがいます。ビリケンの笑顔は幸せの象徴です。友達とユニバーサル・スタジオへ行きました。チケットは高いですね。アトラクションは、どれも怖かったです、面白かったです。いろいろな店、友達と家族にプレゼントをたくさん買いました。たくさん写真を撮りました。いい記念になりました。次に心齋橋へ行きました。にぎやかです。そして有名なグリコの看板の写真を撮りました。梅田の空中庭園展望台、夜の景色を見ました。40階です。約173メートル、360度の景色、綺麗いですね。大阪旅行、ずっと忘れない。今度、機会があればまだ日本に来たいです。</p>
郭 羽 峯	<p>みんなと一緒に奈良公園に行って、鹿を見ました。鹿に鹿煎餅をあげました。面白かったです。それから、興福寺で五重の塔を見ました。そして、写真を撮りました。台湾の観光客に会いました。東大寺へ行ってから、大仏を見て、写真を撮りました。大仏の下の穴を潜りました。この穴を潜ると、幸せになるそうです。それから、春日大社へ行って、お</p>

	<p>守りを買って、おみくじを五回引きました。一回目は末吉、二回目と三回目は凶でした。四回目にやっと大吉が出ました。そして、五回目は吉でした。奈良は古くて、美しい町です。観光はとても楽しかったのですが、たくさん歩いたので少し疲れました。</p>
吳 毓 珊	<p>日本で、私はたくさんの新しいことを発見しました。日本の道はとてもきれいです。晴れの日も、雨の日も、みんな傘を持っています。電車に乗っている人や電車を待つ人は、みんな頭を下げて携帯を使います。公衆電話の中には、電話帳が一冊置いてあります。レストランには、料理の見本があります。高校生のカバンは、いろいろな装飾があります。小学生のカバンは、特別で台湾と違います。日本の道に、バイクは少なく、車が多いです。日本は、カラスがたくさんいます。台湾にはスズメが多いです。バスで大学へ行きます。日本の店は早く閉まります。日本の商店街の看板は立体的で、とても珍しいです。日本の JR とバス、便利です。日本は、祭りが多いです。</p>
劉 家 齋	<p>わたしはこのような日本のお父さんとお母さんに会えてとてもうれしいです。家族にいろいろお世話になって、本当に楽しかったです。この三日間食べ物全部美味しかったです。お母さんは料理がとても上手です。ホームステイの時、ある人に日本の伝統的な天麩羅とすしをいただきました。またある人へは自分で料理を作りごちそうしました。おもしろかったです。思い出になりました。それから忘れられないのは自分で体験した日本文化のこと、たとえば、書道をしました。難しく2時間勉強しました。そして、扇子に絵を書きました。生け花をして折り紙ではしかつけいの箱を作りました。時間がかかりました。そして浴衣と和服を着ました。特に浴衣を着てから花火を見たとき日本人になったような気がしました。この三日間の天気はよかったです。いっしょにあそべてよかったです。でも本当にあつかったです。奈良へ行ったり、京都の祇園祭りに行ったりしました。とてもにぎやかでした。とても迫力がありました。日本の家の外観と内部はとてもみやびやかで、台湾の家とは違います。日本の家庭は生活が規則ただしく、毎朝八時に起き、毎晩十時にねます。体は元気になりました。みんなそれぞれの家庭でとてもあたたかいもてなしを受けました。日本のお父さんとお母さんといっしょにあそんで料理をしました。この三日間の日本の生活は本当に楽しかった。お父さんとお母さんの子供になった三日間をずっと忘れません。</p>
梁 又 晨	<p>私たちは、奈良産業大学で授業を受けました。午前の二時間で最初の挨拶から「してください」「してもいいですか」「したらいいですか」など、いろいろな文法を勉強しました。私たちはみんな日本語専科ではありませんから、話す内容はほとんどわかりません。でも、先生たちの丁寧な授業で、私たちは理解できました。授業の時、先生たちは動作や写真などを使ったいろいろな方法で教えてくれました。後、ほかの日本語の授業で私たちは日本の礼儀を習いました。これらは、とてもよい経験になりました。ここで、学長先生をはじめ、みなさまに感謝します。日本語がわからない私たちみんないろいろ勉強しました。一月間お世話になりました。後、放課後いろいろな体験で日本文化をたくさん勉強しました。先生たちの指導本当にありがとうございました。</p>
林 怡 瑾	<p>7月21日朝8:30 JR 三郷駅に集合しました。そして、いろいろな国籍の友達とバスに乗って出発しました。京都まで一時間半ぐらいかかりました。一番最初についてのは映画村です。そこでは多くの昔の家や忍者ショーを見ることができました。昼は嵐山へ行って昼ごはんを食べました。その時少し雨が降りました。嵐山には多くの人が来ていました。嵐山の雨はとてもきれいでした。</p>
廖 寶 琳	<p>日本で私はたくさんの新しい事を発見しました。たとえば、日本では、朝ご飯の店と飲</p>



	<p>み物の店はありません；台湾では、朝ご飯の店と飲み物の店はたくさんあります。でも日本は自動販売機が多いです；台湾はすこしだけです。日本では、若い女の人や年輩の人はゆかたをきます；台湾では、みんなだいたい洋服をきています。日本人はハンカチと長い傘を携帯します；でも、台湾人はポケットティッシュと折りたたみの傘を携帯します。日本では、からすが多いです；台湾では、からすは不吉の象徴ですから、あまり見ません。日本では、お金をはらうときは、小さい皿の上に置きます；台湾では、店員の手に直接お金をわたします。日本では、神社が多いです、神社の中で、お守りを売っています、奉納、そして祈願します；台湾では、寺が多いです、寺の中に、護身符があります、線香をもってお祈りします。日本と台湾はいろいろ違います、でも、それぞれの文化の違いをまなぶことは楽しいです。</p>
黄 建 珉	<p>たとえ、私たちの日本語は上手ではなくても、真実の心を持っていることが大事だと思います。言葉は違うけど、心で友達を作ることができます。もし、機会があれば、ぜひ屏東科技大学に来てください。ここは台湾で一番大きい大学です。奈良産業大学と同じで、周りにたくさんの木があり、山の上にあります。私たちの大学の減塩醤油はとても有名です。ぜひ買いに来てください。まだ、紹介したいことがたくさんあります。でもたくさんすぎて、どれを紹介したらいいのか、ちょっとわかりません。とにかく、絶対台湾へ遊びに来てください。日本のみなさん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。また、ぜひ会いましょう。</p>